まとめ

平成 13 年度から開始されたスーパーSINET 利用共同研究は、当初計画していた「LHD 実験遠隔参加」と「スーパーコンピュータの遠隔利用」に、「ST 研究のバーチャルラボラトリ」を加えた三つの分野になり、それらの用途に合わせた SNET 利用環境の整備を行った。

（1）これまでの SNET は核融合科学研究所の関連ネットワークとそれぞれの遠隔ステーションをつなぐ個別の閉域接続であったが、平成 17 年度には「LHD 実験遠隔参加」と「ST 研究のバーチャルラボラトリ」の全遠隔ステーションを包含する閉域ネットワークに再構築した。これにより遠隔ステーション間の通信が可能となり、新しい研究スタイルの共同研究が可能となった。

（2）核融合科学研究所の「スーパーコンピュータの遠隔利用」は接続環境が整い、平成 17 年度に共同研究が開始できた。

（3）実行転送速度を向上させるための開発研究が行われ、実用に耐えうる方策が見出された。

（4）スーパーSINET を介して大学の研究室から大型核融合装置の実験に直接参画できることは、大学院学生に対する教育効果が高く、後継研究者の育成に役立ち、波及効果は非常に大きい。今後も遠隔参加を希望している大学の研究室に対して、計画的にスーパーSINET 接続を行っていく必要がある。